

長井市小中学校将来構想検討委員会（第2回）議事録

◇開催日時 令和4年3月30日（水）午後3時～午後5時10分

◇開催場所 長井市役所 2階 庁議室

◇日程

1 開会

2 教育長あいさつ

3 議題

(1) 第1回会議を踏まえたアンケートの集計結果について

【説明：事務局】

4 基調講話

【講師：長井市長 内谷 重治 様】

◆演題：長井市のまちづくりについて

5 意見・感想・質疑応答

6 その他

7 閉会

◇出席者

【委員】

(敬称略)

番号	氏名	属性・役職	区分	第2回出欠
1	江間 史明	山形大学教職大学院 教授	5号委員	○
2	大津 君彦	長井市社会教育委員/育みネット長井会長/子育て連副会長	5号委員	○
3	鈴木 英明	本町商店街 理事長	5号委員	×
4	梅津 洋	長井小学校 校長 (小学校校長会会長)	1号委員	×
5	衣袋 慶三	長井南中学校 校長	1号委員	×
6	迎田 浩昭	長井北中学校 校長 (校長会会長)	1号委員	○
7	小関 洋	長井市PTA連合会 会長 (平野小学校PTA会長)	2号委員	○
8	横山 昌則	長井南中学校PTA会長	2号委員	×
9	深澤 賢一	長井北中学校PTA会長	2号委員	○
10	本石 容子	長井市PTA連合会母親委員会委員長 (平野)	2号委員	○
11	椎名 沙織	長井市PTA連合会母親委員会副委員長 (西根)	2号委員	×
12	上村 正巳	地区長連合会 会長 (中央)	3号委員	○
13	青木 与惣右エ門	コミュニティセンター代表	3号委員	○
14	大沼 幸枝	長井市スポーツ推進委員会・女性委員代表	3号委員	×
15	梅津 建太	児童センター父母の会連絡協議会 会長 (豊田)	4号委員	×
16	渋谷 弘美	白ゆり保育園 園長	4号委員	○
17	孫田 恵	はなぞの保育園 主任保育士	4号委員	×
18	鈴木 裕美子	小桜幼稚園 教頭	4号委員	○
19	工藤 望美	長井商工会議所青年部・女性代表	6号委員	×
20	齋藤 憲幸	長井青年会議所 理事長	6号委員	○
21	齋藤 環樹	長井市副市長	7号委員	×
22	竹田 利弘	長井市 政策推進監	7号委員	×
23	青木 邦博	長井市 技監(兼)建設参事	7号委員	×
24	鈴木 嗣郎	長井市 会計管理者(兼)財政課長	7号委員	×

【オブザーバー】

番号	氏名	属性・役職	第2回出欠
1	遠藤 倫夫	長井市教育委員会 教育長職務代理者	×
2	齋藤 暁美	長井市教育委員会 教育委員	○
3	菊地 和代	長井市教育委員会 教育委員	○
4	小野 卓也	長井市教育委員会 教育委員	○

【事務局】

番号	氏名	属性・役職
1	土屋 正人	長井市教育委員会 教育長
2	佐藤 秀人	長井市教育委員会 教育総務課長
3	目黒 孝博	長井市教育委員会 学校教育課長
4	小阪 寛幸	長井市教育委員会 教育総務課 補佐
5	鈴木千鶴子	長井市教育委員会 学校教育課 補佐(兼)こども未来創造室長
6	今野 透	長井市教育委員会 学校教育課 こども未来創造主査
7	新野 武憲	長井市教育委員会 教育総務課 教育総務主査

◇議事内容

1 開 会

【事務局/教育総務課長】

ただ今から、第2回長井市小中学校将来構想検討委員会を開催いたします。本日の司会進行を務めます長井市教育委員会 教育総務課長の佐藤秀人です。どうぞ宜しくお願いいたします。はじめに、長井市教育長 土屋正人よりご挨拶を申し上げます。

2 教育長挨拶

【教育長】

皆様こんにちは。年度末のお忙しい中お集まり頂きありがとうございます。さて、コロナウイルスについては、新たな変異株が出てきて収束の見通しは立っておらず、収束までは大体5年かかるようです。そのようなウイルスとの戦いがあり、加えて、ヨーロッパではウクライナで大変悲しい事案が起こっております。過去、沢山の命を犠牲にして作ってきた平和が、いとも簡単に破られるものなのか、それを見た時に、これからの世界がどのようなになるのか、とても不安になります。

なぜ、この事を最初にお話したかという、今、私達が関わっている子供達や、これから生まれてくる子供達が、まさにこの世界で生きていかなければなりません。そして、それぞれの立場で、この世界情勢を受け止めつつ、新たな社会を作っていくこととなります。そのため、子供達にどのような力を付けなければいけないのか、大人が真剣に考えていく必要があります。そして、その学びの主たる場は学校教育です。

この会議で扱う小中学校将来構想については、教育委員の皆様からも「非常に掴みどころがなく、どんな意見を述べたらよいのか分からない。」という意見を頂戴しました。例えば、事務局から方向性を提示してもらえれば、焦点が合い、筋道のある意見を出せるのではないかと、というご意見もあったのですが、改めてお願いしたいのは、既存の発想を一回捨てて頂きたい、ということです。

先の見えない時代の中で生きていく子供達には、私達大人が責任を持って力を授けていかなければなりません。将来、どんな力が必要なのか。その為の学びの場として、どんな学校があればいいのか。これは掴みどころのない話ではありますが、これから本当に社会が、世の中が変わっていきます。近年のGIGAスクールも学びに関する1つの方策であります。

そして今日は市長から、長井市の将来の街づくりについて講話頂きます。学びの場である学校は、地域や街づくりの要であり、子ども達に対する大人の願いが詰まった施設でもあると思います。委員の皆様には、全ての既成概念を一度取り払って頂いて、「こういう世の中なら、こんな学校があってもいいのではないか」「こういう世の中だからこそ、こういう子供を育てたい」というような思いを持って、是非意見を出し合って頂きたいと思います。こんな意見は変かもしれない、といった遠慮は不要です。もっとダイナミックに変えていきたいという私達の思いもあります。この思いをどうか受け止めていただき、自由な意見を出して頂きたいと思います。

今日の進め方については、後ほど担当から説明がありますが、この将来構想検討委員会は白紙の状態からスタートしています。もし今後、学校施設を整備する場合は、

諮問委員会のような組織を立ち上げ、具体的な話をしていくことになると思われます。将来構想は、その際の「たたき台」となります。この会議は、様々な選択肢や、将来に向けた皆様の思いを語ってもらう場であることを改めて受け止めて頂き、今年度と来年度の2年間で、将来構想を作っていきますので、どうか宜しくお願い致します。

ご紹介が遅れましたが、本日も山形大学から江間先生にお越しいただきました。どうぞ宜しくお願いいたします。学校施設や教育方策の新しい風潮については、前回の会議で江間先生からご講話頂いたとおり、どんどん様相が変わってきております。

併せてご報告が2点ございます。1点目、先日の3/25、学校施設関係のご指導のため、文部科学省大臣官房、文教施設企画・防災部、企画調整官の廣田貢さんに来市頂きました。廣田さんには、市長からも当検討委員会のアドバイザーとして関わって頂きたい旨をお願いしたところです。2点目、4月から本市職員を研修生として文部科学省へ派遣する事となりました。20年～30年先を見据えた学校施設の検討や先進事例など有益な情報が得られるよう、文科省との繋がりを深めて参ります。

本日の会議も、是非、長井市の子供達がこんなふうになってもらいたいという、皆様の思いをぶつけて頂きたいと思います。どうか宜しくお願いいたします。

3 議題

【事務局/教育総務課長】

次に、次第「3 議題」に移ります。委員会設置要綱の第3条第3項により、委員長に座長をお願いします。迎田委員長、よろしくお願いたします。

【議長/委員長】

それでは、次第に従って議事を進行します。はじめに、「(1) 第1回会議を踏まえたアンケートの集計結果について」、説明を事務局からお願いします。

【事務局/教育総務課主査】

事務局から説明申し上げます。それでは【資料1-①】「◇第1回将来構想検討委員会・会議要旨」をご覧ください。今回は山形の江間先生に基調講話を頂き大変ありがとうございました。要点を資料にまとめております。

◆江間先生講話の要旨

「人口減少が学校に与える影響」から「義務教育学校化」、「小中一貫校」と「複合化」のお話をさせていただきました。また、学年段階の区切りについて、これまでの6・3制度以外もある、という事を教えていただきました。更に、新庄市の萩野学園を例として、小中一貫校のカリキュラムや、施設一体型の校舎の様子についてもご説明頂きました。「⑥施設分離型の事例」としては、東京都三鷹市の例をお話いただきました。三鷹市では1つの学園を小学校2～3校と中学校1校で構成しているとのことでした。

次に、平成26年度に行なわれた文科省による調査では、小中一貫校とした主な狙いとして、「いわゆる「中1ギャップ」を和らげる」、「小中間の連携を強めて勉強をしやすくする」、「教職員の意識改革」等が挙げられておりました。成果についても、「中学校への進学に不安を感じる児童が減少した」、「いわゆる中1ギャップが緩

和された」、「教職員間で互いの良さを取り入れる意識が高まった」、「教職員間で協力して指導にあたる意識が高まった」という調査結果であったとのことです。

学年段階の区切りを変えたことに拠る成果については、6・3制と4・3・2制を比較すると、「全国学力・学習状況調査の結果が向上した」、「都道府県もしくは市町村独自の学力調査の結果が向上した」、「民間の標準学力検査の結果が向上した」、と、学力向上に関する結果が挙がっておりました。また、「いわゆる「中1ギャップ」が緩和された」というのが1番の成果とのことです。

一方、小中一貫教育の課題もありました。「小中の教職員間での打ち合わせ時間の確保が大変」、「研修時間の確保が大変」、「教職員の負担感・多忙感の解消」、「施設・スペースの確保及び使用時間調整」等が挙がっておりました。施設が変わると教職員の時間配分が変わりますので、変化に伴い、こういう課題も生じることについて、江間先生からご講話頂きました。

◆各委員のご意見要旨

次に、各委員からの意見です。初めに、小中一貫教育に対する期待と懸念についてご意見を頂きました。「中1ギャップ」については、「親子共に不安だった。これが解消されるのはとても良い」というご意見に対し、「中一ギャップ」の緩和にはなるが、教職員の負担は増えそうだ」と心配の声もありました。

施設一体型の小中一貫教育については、期待の声をいただきました。「施設一体型の小中一貫教育は理想形と思う。現時点では叶わないが、20年後、30年後を考えた際、必然的に集約化の方向に向かわざるを得ないのでは」というご意見がありました。

また、学校統廃合・大規模化については懸念の声がありました。「幼少期から先生や友達としっかり関われるのは小規模校。大規模校になるとそれが出来なくなるのではないか」というご意見がありました。また、長井小学校特有の事情ですが、長井小の卒業生は進学により南中と北中に分離するため、「小学校時代の同級生と一緒に活動が出来なくなる」ことが課題として挙げられました。

学年段階の区切りについては、「6・3制と4・3・2制のどちらが良いかは判断がつかない」というご意見がありました。

また、複数の委員からは、愛郷心・Uターンに関するご意見がありました。「市外に出てもいずれは地元に戻って来て欲しい」というご意見です。

施設の複合化・地域交流については、「学校にコミセン等、他の施設を入れて、学校が複合施設化すると地域交流が進んでいいのではないか」というご意見もありました。

部活動については、「南北中で部活動を一緒にできないか」というご意見がありました。「4・3・2制で、5・6年生時に体験部活動があれば制度として有益」という話も出てきました。

幼保小連携については、「中1ギャップ」の他に、小学校に上がる時のギャップもある」というご意見があり、「長井では幼保小交流を行うことで入学児童の不安を減らしている」というお話を頂きました。

また、まちや施設の利用については、「学校以外に、商店街や市内の施設が教育に携わることも必要ではないか」といったご意見や、「市内の会社・施設を見学して、本物を見る・実際に触れ合う機会が大事ではないか」というご意見を頂きました。

その他、コロナ禍の世相を踏まえ、「子供達がエネルギーに体験や学習を思い切り出来るような教育環境の実現を求める」という意見もありました。

◆会議後のアンケート結果について

次に、第1回会議を踏まえたアンケート結果について説明致します。はじめに、江間先生の講演を受け、特に印象に残った事についてです。「6・3制以外に、地域の狙いに合わせて学校再編が可能であること」や、「新しい情報をお聞きして目から鱗だった」というご意見がありました。

参考としたい点としては、「4・3・2制の方が学力の向上が実感できる」こと、加えて、「中1ギャップ」が緩和されること、「学習や生徒指導などにおいて、具体的な成果が上がっている」ことです。

感想としては、「中1ギャップ」の他に長井の小中学校・子供達にとってどのような教育が合っているのか考えていくことが必要」とのご意見を頂きました。全国の事例は確かに情報として有益ですが、長井市にとっての最適解は何か考えることが肝要である、というご意見です。

また、「前回会議で発言しきれなかった意見や、小中学校の将来の姿を考える上で大事にしたい点がありますか？」という質問に対しては、学力についてご意見がありました。「日本では学力重視の傾向がある。そのニーズに対応するなら「学力向上」や「その代替能力の向上」。ただ単に勉強ができるだけではなく、仕事につながるような代替能力の向上を教育の中心とする必要があるのではないか」というご意見がありました。

また、「未来を生きる力」、「予測困難な時代を生き抜く「たくましい心」の育成」「グローバル化、技術革新、こういったものに適合できるしなやかさ」「生きる力の学びを大事にしたい」という大切なご意見をいただいたところです。人間関係に関しましては、「小中学校の友人は一生もの」。それから「郷土愛・帰郷」に関しましては、「地域の行事について学ぶ時間を大切にしてほしい」というご意見もありました。

また、産業教育についてのご意見もありました。「長井ではビジネスチャレンジコンテストなどを行っている訳ですけれども、地元にいながら世界にチャレンジする体制作りを少しずつ整えてきているので、これらを発展させてみてはどうか」というご意見をいただきました。

また、多様な視点につきましては、「少子化対応を目的とした小中一貫教育だけにならないよう、様々な手法のメリット・デメリットをしっかりと見極めたい」というご意見がありました。また「中央地区以外の郊外の地区にも、広く意見や思いを集める機会があれば」というご意見、「幼・保の園、高齢者、地域コミュニティとの連携、建設中の公共複合施設や、もう既にありますけれども、旧長井小第一校舎などの他施設の活用など、幅広い視点での検討が必要」というご意見がありました。

なお、「事務局に調査・整理を求める情報」についてもご意見いただきました。「長井市においても小中一貫校の検討が行われたことがあるか」については、経過はございません。また「検討経過と結果はどのような内容だったのか」についても「経過無し」と回答させていただきます。それから「既に小・中一貫教育を受けている子供達の学力到達度などが、従来の6・3制の子供達と比べてどうか」という質問がありました。これについて調査はして見ましたが、平成26年度の文科省の全国

調査以降、全国的な調査結果がありませんでした。学校単位での調査はおそらくどこかで行われている可能性があると思われませんが、それを公表し、他校等と比較されることは、学校にとってはかなりナイーブなこととなりますので、情報を見つけることが出来ませんでした。ご希望に添えず申し訳ございません。

それから「萩野学園の子供達、教職員、保護者たち、地域、現場ではそれぞれのどのような評価であったか」についてですが、こちらも問い合わせはしてみたのですが、今のところ回答は無かったということで、申し訳ございません。

その他ですが、勤務先で、萩野学園の9年生（中学3年に相当）の生徒達とお会いした方がおられました。生徒達の様子はかなり好印象であったとのことで、萩野学園の手法が色んな面で効果として表れていることに感銘を受けたそうです。この内容につきましては、後ほどお読み取り頂ければと思います。

(1)については以上です。

【議長/委員長】

前回の会議で委員の皆様から挙がってきたご意見と、アンケート内容について説明がありました。改めて補足やご意見がありましたらお聞かせいただけますか。

では引き続き、今日の会議の流れについて事務局から説明をお願いします。

【事務局/教育総務課主査】

冒頭、教育長の挨拶でもありましたが、この小中学校将来構想検討委員会は難しいテーマを扱っている会議であり、本当に雲をつかむような議論で申し訳ないのですが、皆様からの子供達への思いを是非聞かせていただきたいと存じます。前提が無いため、どんな意見を言ったら良いのか分かりにくいというご意見も承知しております。本日もこれから市長の講話があります。「まちづくり」と「学校」というのは、かなり漠然とした議題ではありますが、実は密接に繋がっております。コミュニティの中心として学校があり、また他の施設等との共同で、学校の教育を行うこともあります。委員の皆様は様々な立場でご活躍されていますので、「まちづくり」と「学校」が繋がっている色んな所を考え、ぜひ忌憚のない意見を頂きたいと思います。

繰り返しになりますが、この会議は白紙の状態です。これは形が見えるまで分かりにくく、それまで非常にモヤモヤすると思いますが、敢えてこのやり方で進めさせて頂きますので、よろしく願いいたします。

考え方の一例として、バックキャストという手法を紹介させてください。これは目的ではなく、あくまで手法の一例として考えて頂きたいと思います。現時点で非常にモヤモヤした状態を、この図で言いますと「未来（目標）」とします。今日の第2回の会議では、白紙の状態、「未来（目標）」を語って頂きたいと存じます。この目標に対して、何をしていかなければならないのか、という事は、次回以降の第3回・第4回・第5回で考えていく必要があります。「これから目指したい理想の姿」「学校の姿」「児童生徒の姿」こういったものをまず皆さんにお話しただいて、理想に対して今はどうなんだろう、というのを段々と深めていくこととします。また、何が足りないんだろう、どこが生かせるんだろうと、とことん掘り下げていくこととします。そうすると、現在に対しての差が見えてきます。この差、課題を乗り越えるためのアクションが、将来打っていかなければならない施策となります。実現したい

未来から考えた時に、どんな学校・教育で実践していきたいかを考えてまいります。

まずは「実現したい未来」「理想とする教育の姿」。そうすると、上の部分は非常に抽象的なんですけども、具体的なところでいうとハードのところ「あるべき学校施設の姿」。そして現状との差が出てきます。こういった手法で会議を進めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次回の会議以降、段階的に検討を進める中で、ご意見等に基づいてテーマごとに整理し、グループワークのような熟議を令和4年度に行うことを考えております。「多様な意見から積み上げる手法」それから「バックキャストの思考」について説明させていただきました。この後、市長の講話をお聞きいただき、「まちのビジョン等とのつながり」、それから市の財政も含めた様々な制約条件を確認し、委員の皆様のご意見と考え・理想とする学校・教育のイメージをまとめ、方向付けをし、令和4年度の残り3回の会議で将来構想をまとめていく、という流れになります。

なお、本日の講話について、事前にお送りした資料があります。この資料につきましては、「こういった事が考えられるのではないか」という一例を上げさせていただいております。あくまで一例ですので、今日は白紙の状態では是非お考えいただき、ご意見賜りたいと思います。本日の会議の流れについては、以上のとおり、宜しくお願い致します。

【議長/委員長】

今事務局から将来構想検討委員会の方向性の確認がありました。委員の皆様はこの方向に基づきながら会議を進めていくことをお願いしたいと思います。

では早速、市長の講話に移ります。内谷市長、どうぞよろしくお願いいたします。

4 基調講話

【講師/長井市 内谷市長】

◆冒頭説明

長井市の今後の小中学校の将来構想をどうすべきか、ということで、皆様から色々意見交換、ご議論いただきありがとうございます。私からは行政側の立場で、今後20年～30年先を見据えて、どんなまちづくりを考えているかについて、45分の時間枠を頂いておりますのでよろしくお願いいたします。パワーポイントの画面とお手元の資料等をご覧いただきながら、私の話を聞いていただければと思います。

今日は項目を4つお話します。最初にその概要をお話します。初めに、「1. 長井市勢について」。これは人口減少から見た将来の長井市の姿を説明させていただきます。続きまして「2. 長井市の取り組み」。この中では、分野を3つに分けて、まちづくり、仕事づくり、人づくりの視点でお話します。市民の皆様が健やかに暮らせる、あるいは子供達が未来に向かって、自分の希望を叶えるためにどんな教育・子育てのお手伝いをさせてもらうか。そういったことを、「2. 長井市の取り組み」でお話させていただきます。「3. 公共施設整備計画」につきましては、「2. 長井市の取り組み」の中の、施設に関することにスポットを当ててお話をさせていただきます。最後の「4. 未来への取り組み」につきましては、仕事づくりの面から見た、特にデジタル技術を活かして長井市としてはどんな取り組みをしていけるのかを想定し、どういう未来を期待しているかを含めてお話します。

◆1. 長井市勢について

最初に長井市の人口についてお話しします。長井市の人口のピークは1985年・昭和60年に約3万4千人でした。0歳児から中学生までの年少人口は、2020年に2,903人でした。過去の年少人口はどうだったかという、1980年・昭和55年には約6,500人でした。この40年間で半分以下になってしまいました。

厚生労働省の中に社会保障人口減少問題研究所（略して社人研）というシンクタンクがあり、そこで将来推計をしています。推計値はかなりの精度で当たっています。それによりますと、2020年から2045年までの間、置賜3市5町の中では、米沢市以外の2市5町の人口は半分以下になると予想されております。

皆様は小中学校の将来構想を検討いただいている訳ですが、このままでは20年後の人口は約半分になる予測です。学校の将来については文部科学省の考え等も参考にすべきことだと思いますが、将来の子供達の教育、学校について、長井市としてどうするか、非常に難しいテーマを皆さんに扱って頂いております。

一方で高齢者の人口は増えています。今の3月の時期は6地区の地区長会の総会が行われます。私も参加して、1年間の御礼と、市政報告をさせて頂いているのですが、その時申し上げるのは、「皆さん、40年前を考えて下さい。皆さん20代・30代でしたよね。」と。地区長のほとんどが60代・70代の方です。ですから、「40年前は3世代同居の方が多いでしょう。今はどうですか。」と尋ねると、かなりの世帯が2人暮らしなんです。子世帯が近くにいても同居していないケースが本当に増えています。山形県は全国的にも3世代同居率が高いと言われています。先ほどのグラフでも、約40年前の長井市では、7割～8割が3世代同居でした。ところが現在は3割を切ってしまいました。私の家も30年前は8人家族でしたが、今は妻と2人暮らしです。4人の子供のうち、1人は近くに戻ってきてこちらで就職しましたが、転勤して今は近くにいません。もう1人は結婚して隣の町に行き、あと2人は東京に住んでいます。こういう世帯がもう一般的になりました。子供が戻ってこないことで生じる色々な問題が、我々行政にとっては非常に深刻なんです。

「人口減少がまち・生活に与える影響」についてです。長井市では、65歳以上の夫婦や一人暮らしの高齢者世帯が、市全体の約1万世帯のうち、約25%の2,500世帯を占めています。70代・80代になると買い物にも行けなくなったり、いざという時には夫婦だけ、自分1人だけではどうにもならない事があります。今年のように大雪では、雪かきや雪下ろしも困難です。

長井市の職員も、24年前の平成10年には正職員が430人いましたが、今は290人まで減らしています。その一方で、業務はどんどん増えています。単純作業はデジタルやICTを使っていかに効率よく処理するかを考えなければなりません。

職員が減れば、地域の支援まではなかなか手が回りません。福祉関係の団体としては、長井市社会福祉協議会（社協）が福祉の拠点になっています。民間の社会福祉法人もどんどん設立され、社会福祉サービスを提供して頂いておりますが、それでも福祉の網をすり抜け、サービスを受けられない高齢者がいらっしゃいます。行政だけでは出来ない、社協と協力しても出来ない、民間の社会福祉法人だけでも出来ないことがあります。そこで、地域の核となる、地域づくりの拠点が必要と考えました。地域コミュニティ機能や生活関連サービスについては、我々行政と連携しながら、地域の拠点として業務を担って頂く団体として、コミセンを考えました。

コミセンについてはまちづくり分野のところでお話します。

人口減少は当然、学校にも影響があります。長井市では中学校が2校あり、置賜では1番早い40年前に統合中学校が実現しました。今後の状況次第では、何十年か後には1か所に統合する必要があるかもしれませんし、義務教育の6・3制を変えれば中学校の有り様も変わってきます。一方、小学校の統廃合は避けたいと考えています。なぜかというと、地域のコミュニティが崩れてしまうからです。

人口減少によって、商店や飲食店も成り立たなくなります。そうすると、若い人達はますます不便になり、勤務先が長井市だとしても、利便性を求めて、もう少し暮らしやすいまちに移り住み、家を建てる人もいます。「実家はいざという時に帰れたらいい、20~30分で来れるじゃないか。」という感覚です。これは長井市だけでなく日本全体の問題であり、核家族化はどんどん進んでいくと思っております。

◆2. 長井市の取り組み（まちづくり分野）について

まちづくり分野については、要点はコンパクトシティ・プラス・ネットワークです。これは長井市だけで考えたものではなく、約20年前から国、特に国土交通省が言っていた将来ビジョンです。国では20年ほど前から、今後人口が減り続けていく事は分かっていました。私が市長に就任して今年で16年目になりましたが、最初の選挙の際、これから人口はどんどん減るので、それを見据えて将来の事を考えるべき、とお話ししました。20年、30年後の事を考えて、今、何をすべきか、市民の皆様と議論し、あるいは議会と色々審議しながら、積極的な方向でまちづくりを進めていかないと手遅れになってしまいます。

今の長井のまちなかは非常に衰退しています。経済面では、平成の初頭から中期に掛けて数年にわたり相次いで生じた企業撤退に対し、抜本的な手が打てなかった事が今の実態を招いていると考えています。特に長井市は東芝系の電子部品製造の企業城下町として栄えた時代がありました。マルコン電子の場合、昭和50年前後の最盛期には、グループ企業も含めて約2,500人の就労者がいらっしゃいましたが、今は日本ケミコンの傘下に入り、現在の就労者は300~400人位と思います。また、ゲンゼと傘下の長井アパレルも、昭和40年代には約300人が働いていたようです。ゲンゼの隣にあった協同薬品は、平成の初頭に生産拠点を川西に移しましたが、昭和の時代は営業・総務・工場を含めて約500人が働いていたようです。ハイマン電子グループの就労者は約1,100人でしたが、倒産してしまい、今は加賀マイクロソリューションが営業権を引き継いでいます。このように、企業の撤退、倒産、リストラ等が短期間で相次ぎ、多くの雇用が失われました。

関連して、病院施設の話をしてします。長井市立総合病院は最盛期は486床もありました。川西町にある今の公立置賜総合病院とほぼ同じです。3次医療分野の救命救急医療や循環器や脳外科に関しては不十分ではありましたが、長井市立病院は県内でも有数の総合病院だったんです。平成3年~4年頃までは黒字でしたが、それがどういうわけか、一気に赤字になって、平成7~8年には20億円位の累積赤字が出ています。この経過から、県からの病院広域化の話に乗って、長井市立病院の診療科の多くを川西の公立置賜総合病院にまとめてしまいました。これに抛り、通院に伴う人の流れが大幅に減少し、大町・十日町を中心に、長井のまちなかが寂しくなってしまうました。原因は、既に25年~30年前から生じていたんです。その時に手を打っていたら、現在の状況までには至らなかったと思います。

地理的な話をします。長井市は大字単位で6つの地区があります。中央地区には市役所等のまちの主要機能があります。一方、周りの5地区については、居住エリアであれば、どんなに遠い場所でも、まちの中心まで車で15分はかかりません。そういうまちは、山形県35市町村ありますけども、その中でも5つ6つしかありません。置賜でも郊外から町の中心まで30分~40分かかる所はいっぱいあります。地理的には、長井市はコンパクトなまちなんです。では何が問題かというところ、中心市街地が衰退して、芯が無いまちになってしまったので、日常生活に不便が生じていることです。特に商業機能の衰退が大きな課題です。

一方、郊外の地区については、元々都市機能はありませんが、各地区のコミセンをもっと充実させることに現在取り組んでいます。各地区と中央地区を繋ぐ役割としては、平成26年から市営バス拡充して対応しています。拡充前はバスが2台しかありませんでしたが、拡充後は郊外地区の数と同じ5台にしました。今後はまちなかを循環するバスを、100円均一で乗れるようにしていこうと考えています。交通に関しては、極端に不便な地域は少ないと思います。

次に都市機能の話をしていきます。平成の約30年間、長井市では箱物の整備が出来ませんでした。市役所は昭和30年代、長井市立病院、市民文化会館、給食調理場は昭和40年代に整備した建物です。今年度完成した新庁舎については、計画の段階から、また長井市の財政が大変な事になるのではないかと批判はありました。しかしながら、財政が厳しくなった理由は様々で、都市機能の強化をしていかなければまちの衰退はむしろ進みます。同じ轍は二度と踏まない覚悟で、我々としては色々なことをやってきております。市役所の隣に建設中の、遊びと学びの交流施設「くるんと」は令和5年度の7月に完成予定です。市民はもちろん、置賜や西村山からも来てもらえるぐらいの規模と内容を練りました。市民文化会館も令和2年度に大規模改修が完了し、タスもあと少しで改修が完了します。

このたび、改革を進めたコミセンについてお話します。昭和50年頃の長井市では、各地域公民館に市の職員を主事として派遣していました。地区のことも市が主導してやっていたということです。その後、長井方式として、地区公民館の運営を地区にお任せしたのが昭和55年頃だったと思います。当時は3世代同居が一般的で、農工商一体のまちとして、働く場も、都市機能的にもあって、我々市民がそれなりに楽しめる、いい時代でした。ところがその後、どんどん若い人が減り、核家族化が進み、地区公民館の経営も厳しくなりました。公民館主事の待遇と給与体系も、その仕事だけで生活するにはかなり厳しい状況になってしまったので、せっかく主事になってくれた方が早々に辞めてしまうことがありました。

この状況を打開するため、10年ほど前から地区公民館の館長、主事と意見交換し、今後は市も積極的に関わらないと、十分な事業費が確保できないという事から話し合いを進めました。5年ほど前からは、まずは地元の皆様で、自分の地区を将来どういう地域にすべきか、計画を作ってみてください、とお願いをしました。その後、地区公民館からコミュニティセンターに移行し、6地区全てにおいてコミセン化が完了しました。今後も地域づくりの核となるように、一般社団法人化しようという事を、市も関わって3年位かけて進め、今年度、ついに法人化しました。

今日、伊佐沢にスマートストアという、スマホで全てデジタル決済できる、いわゆる無人店舗がオープンしました。当初、こういう取り組みに応じてくれるコミセ

ンを募ったところ、伊佐沢コミセンが手を挙げてくれました。また、豊田コミセンでは3年前から、高齢者世帯を中心とした、自分で除雪出来ない世帯に対し、除雪の有償ボランティアに取り組んでいます。市で除雪機を準備し、多少の運営費を補助しています。今年は雪が多かったのが非常に助かった世帯が多かったようです。その他、コミセンでは今後も様々な事業を実施して頂きます。地域福祉を基本として、いざという時の地域防災機能はもちろんのこと、生涯学習や1市民1スポーツについても、コミセンが中心となり、市と一体で進めて参ります。今年はコンパクトシティとコミセンで、共に創る地域づくり元年にしたいと考えています。

◆2. 長井市の取り組み（仕事づくり分野）について

仕事づくり分野についてお話しします。人口が減りますと、どんどん地域経済の財が少なくなります。特に地域内でのサービス業の財です。元々長井は農業と製造業が盛んで、ものづくりで外貨を稼いできました。その稼いだ外貨を地域内で循環すると、効率よく地域が潤うんですが、サービス業、特に飲食業がだいぶ衰退してしまいました。

外貨を稼ぐ手段を増やすために、観光業の強化も必要です。10年程前に観光振興計画を作り、これからは長井市単独ではダメだと判断し、南陽市・飯豊町・白鷹町・小国町の2市3町で、観光の広域化を図るべく、旅行会社を行政で作りました。それがアルカディア観光局です。ここでは、民間と一緒にあって、単なる観光だけではなく、置賜地域のファンになっていただくことを目標にしています。そしてハードルは高いですが、セカンドハウスでも良いので、移住・定住に繋がるような仕掛けもあります。地域の魅力を感じてもらい、遊びに来た際に、地域の人と交流が続くことで地域の活性化が図られると考えています。アルカディア観光局では、コロナ禍でもこの状況に対応した色んな取り組みをしております。自然環境を生かした観光や、市民との交流、この地域ならではの体験をしてもらい、ファンやリピーターを増やしていきたいと思っております。

次にタスについてお話しします。タスは昭和63年完成の建物で、築30年以上経っています。タスのホテルの部分は商工会議所が所有し、地場産業振興センターが会議室や2階のコンベンションホール、ホテルの客室の一部を管理してきました。タスは地域の産業振興、あるいは観光、交流の拠点として頑張ってきたんですが、コロナ禍では経営が大変厳しい状況です。また、市内の宿泊施設や飲食店との競合も課題でした。そこで、タスの中身を少し変えていくことを考えました。昨今のテレワーク化やICT技術に併せて、eスポーツスタジオ、サテライトオフィス、ワーケーションルームを作りました。これを第1弾として、仕事後には観光なども楽しめるよう、今年、来年で第2弾の改修を予定しております。予算については地方創生交付金制度を活用し、総額約20億円予定しております。こんな取り組みをしていく事によって、色んな可能性が広がると思います。

もう1つ、新産業団地についてお話しします。長井は残念ながら地理的に新幹線、高速道路の関りが薄い場所です。ただし辛うじて、新潟・山形を繋ぐ地域高規格道路が令和5年に完成予定で、今、梨郷で途切れている道路が、長井市の今泉まで繋がります。この道路が出来ることによって、新産業団地を特例で作ることが出来ます。川西町では置賜総合病院付近のインターチェンジエリアにメディカルタウンを作るそうですが、我々長井市では今泉に新産業団地を作ります。その際、業種にも

こだわる必要があります。

皆さんはパソコンのデータをクラウド上に保存することがあると思いますが、例えばLINEは韓国でデータ管理をしていて、そのデータを中国に全部見られているといった話がありました。リスク管理上、データセンターは国内にあるべきなのですが、日本の場合、データセンターは8割が首都圏にあります。しかしながら、首都圏は地震や水害等の災害のリスクが明らかになっており、地方への移転の動きがあります。国ではデジタル田園都市国家構想を進めており、地方がデジタル関係の業種を受け入れると、国から色んな支援が受けられる可能性があります。こういった情報もある中で、今泉の新産業団にはどういう業種がいいのか検討を進めています。面積は最大でも20ha位で、4月からは市長部局に新産業団地整備課を設置します。梨郷道路の開通に合わせて、既存の企業にも資するような産業団地を目指して、今年、来年で進めて参ります。

長井市や西置賜は働く場が十分あり、有効求人倍率も1.45倍あります。正社員の有効求人倍率も2.0倍を超え、県内でも断トツです。でも逆に言えば、若い人がおらず、いくら募集しても集まらないという状況にあります。小国町の例を挙げますと、小国には外資系の半導体製造会社があります。給与水準も高く、去年は繁忙で、ボーナスは給与の5か月分以上だったそうですが、そんな好条件でも求人に関しては思うように集まらないそうです。長井市の新産業団地については、若者の新たな雇用の場としてどのような形が良いのか、現在真剣に取り組んでいるところです。

◆2. 長井市の取り組み（ひとづくり分野）について

ひとづくりの分野については、皆さんご存じかもしれませんが、ICT教育、外国語教育を進めています。子供達が自分の望む社会、あるいは仕事に関する教育支援をしていこうと、我々市長部局でも思っていますし、教育委員会とも話し合いながら色んな取り組みをしています。

教育・子育てについては意外と見逃されるんですが、長井市では今年の4月から、医療的ケア児の受け入れについて予算化し、県内では1番最初に行なっています。この他、病中病後や言語障がい等の相談窓口を設けています。不妊・不育の補助も、県内では村山市の次に10年以上前から始めています。これらはあまり注目されませんが、長井市は割と充実していると思っています。長井市としては、教育・子育てを施策の1丁目1番地として頑張っているところです。

クオリティ・オブ・ライフ(QOL)については、芸術・文化、あるいは生涯学習・スポーツにどう関わるかという事が、人生の潤いのために必要なことです。こういった分野もひとづくりの視点で充実させていきます。

◆3. 公共施設整備計画

次に、公共施設整備についてお話しします。今年の5月からは長井病院がプレオープンします。市役所に隣接する元グンゼの跡地で建設中の公共複合施設は、その中身は図書館と屋内遊戯施設を備えた子育て世代活動支援センターの合築施設で、事業費としては約42億円かけています。長井市としては破格の事業費で、このような投資は庁舎以外では今までした事がないと思います。この公共複合施設は来年の夏に完成予定です。我々行政が出来るのはここまでです。しかし、これだけでは中心市街地の活性化には足りないと思い、資料では「その他」と書いている欄があり

ます。ここには、「まちなかへのショッピングモールや映画館、フィットネスジムなど民間企業の誘致を検討」と書いています。公共複合施設が出来れば明らかに人の流れが変わりますので、民間施設の誘致は決して不可能では無いと考えています。タスにもフィットネスジムはありますが、もう少し安い会費で、あるいは誰でも気軽に出来るような、大勢の人が楽しめるスポーツジム、例えば高島町にある「ユルト」のような施設が必要だと思っています。長井市でもおそらく掘れば温泉が出ると思っていますので、まちに温泉を作りたいと思っています。

長井市の場合は、平成の財政再建の際に土地開発公社を廃止してしまいました。行政が土地を持っていれば色んな事が出来るのですが、公社が無いので土地をおさえられません。その代わり現在は、民間企業からの用地協力を得て公共複合施設の整備を進めています。

中心市街地の再整備に関しては、県の街路整備事業の補助を受け、本町の整備が進みました。これに引き続き、中央十字路の予定もあります。もう1度街並みを作り直すチャンスです。この先は民間と一緒にやる必要がありますが、ショッピングモール、ホテル、マンションなどが出来れば、まちの中心の空洞化が防げるのではないかと考えています。

◆4. 未来への取り組み

最後に「スマートシティの取り組み」をお話しします。長井市をはじめとする地方では、若い人達が一旦県外の大学や専門学校に進学すると、その8割が戻って来ません。皆さんご存じのとおり、就きたい仕事は大都市にあるからです。これを打開するために、我々小さな市町村は何を一番重視すべきかと考えた時に、やはり必要なのはデジタル技術です。これからもICTがどんどん進みます。AIの進化、ネットワークの5G化、次世代のGPS、ドローンなどです。元々長井はロボット技術については価値のある企業が沢山ありましたから、ドローンなどについては上手く使っていくことも考えられます。これから少子超高齢化の中で、市民の皆様の暮らしをより便利に、尚且つ色んな課題を解決していくには、デジタル技術を上手く活かすべきだと何年も前から考えて参りました。2年間に内閣府からデジタル人材の派遣について募集が始まった際に、長井市では待ってましたと手を挙げ、派遣先となる全国の30自治体の中の1つに長井市が選ばれました。そのおかげで、去年の秋にはスマートシティ長井という、いわゆる5年間の補助事業も採択頂く事が出来ました。今はまだ社会実験レベルですが、これを契機にeスポーツなどにも取り組んでいく予定です。スマートシティとして色んな事を実証実験しているところでは、「地方に戻りたい」「地方の魅力あるところに移り住みたい」という若い人が少しずつ増えていると皆さんも聞いていると思います。現実のところ、そう簡単には来てもらえませんが、こういった技術をどんどん駆使していけば、東京に住まなくても東京に本社のある会社に就職でき、給与格差もほぼ無い、そういう時代が間もなく来ると思っています。我々はそのためにスマートシティの取り組みを進めていきたいと思っています。

◆その他

以上、話が多岐にわたり恐縮ですが、昨今の社会の在り方を前提に、長井市はこういう事にチャレンジして参ります。市政については、長井市の小中学校の将来構想と併せて、関心を持って頂きながら、ご意見を頂ければありがたいです。

なお、学校に関連して、まちづくりの考え方を補足します。私ども長井市では、まちの骨格は「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」で考えています。たぶんこの考え方は30年位は継続できるだろうと思っています。伊佐沢小学校は今は複式に学級が解消しましたが、数年前から複式学級が続いておりました。複式学級が始まった当初、伊佐沢地区の住民の多くは複式となったことに非常に危機感をお持ちになりました。一方、伊佐沢の皆さんは気付いてないかもしれませんが、中学校に進学すると、1番友達になりたいのが伊佐沢の子供達で、人気があるんです。伊佐沢の子供達は複式学級の経験だけでなく、他地区と少し違うようなんです。小学校での最高学年を6年生までに維持するのか、それとも制度改革で4年生までにするのか、今後のことはわかりませんが、私どもとしては各地区の施設は維持していくことが重要と考えています。中央地区は幼稚園・保育園が沢山ありますが、周りの5地区については児童センターを頑張って残しています。小学校、児童センター、コミセン、郵便局、この4つの施設があると、最低限の色んなサービスが受けられますので、コミュニティの継続も可能だと思います。この4つの施設がミソだと思います。以上で私の話を終わります。ご清聴ありがとうございました。

5 意見・感想・質疑応答

【議長/委員長】

内谷市長からは、大変詳しく今後の長井市のまちづくりに関してお話をいただき、誠にありがとうございました。

学校での話ですが、実は先般2月、南中、北中の3年生を対象に、市長からまちづくりに関してお話を聞く機会がありました。内容が盛り沢山で、難しい内容もありましたが、生徒は非常に目を輝かせて聞いておりました。そのあと、全員が感想を書き、市長にお渡しさせていただきました。生徒の感想を少し紹介すると「この話を聞いて、僕は・私は必ず長井に戻ってきてまちづくりに参加したい」とか、「まちづくりの段階で地域に関わる会議の場で自分の意見を述べてみたい」といった感想がありました。自分の住んでいるまちに誇りが持てるという事でありましょうか。将来を託せるまちづくりが進んでいる事に期待している意見が多かったと私は捉えています。

今日は冒頭で、教育長からは「予測不能な時代を生抜く力を育む」、そして市長からは「長井市のこれからの発展」についてお話いただきました。そのために、学校でこんな子供を育てていきたい、という夢や希望を、これからの時間で、是非皆さんで語っていただきたいと思います。制度上の制約などはあるかと思いますが、まずは制約抜きで、皆様からご意見や感想など、お話を伺いたいと思います。それでは名簿順にご発言頂きたいと存じます。

【委員】

今まで様々な会議・場面で細切れに聞いていた内容を、今日の市長のお話では纏めて聴くことが出来ました。現在の長井市は大きな変革期にあると感じます。もちろん、計画は以前からあったと思いますが、より具体的に変化が見えてきたと思います。

私が1番注目しているのはスマートシティです。西暦2,000年頃から、世界的に1番給与水準が高い職種はデータサイエンティストであると言われています。今、長井

市の取り組みの1つとしてスマートシティが始まりました。10年後には日常生活のあらゆる所でICTやデータが活用される時代になります。高等教育課程でデータサイエンティスト教育が昨年あたりからスタートしています。スマートシティから得られたデータを分析して、新しい社会構造を発想していく中心となる世代が、今の中高生であると思います。この会議のテーマである小中学校の将来構想に照らし合わせると、集められたデータを、社会の仕組みの変革や新しい事業等のアイデアの基として考えることが学校教育で出来れば、学校と社会のニーズは合うのではないかと個人的に思いました。

【議長/委員長】

ありがとうございました。次の方、お願いします。

【委員】

市長が長井市の未来についてここまで考えて下さっていることを有難く思います。前回会議でも話題に上がりましたが、学ぶ・技術を養うためには、高校・大学進学で長井を出ることは致し方ないことと思います。一方、その後、長井に戻ってきたいと思った際に、例えば商業施設や就職先などが長井に求められます。これについては我々市民も、長井市には何が必要なのか、また、何があるべきなのかを考え、実現できるよう、皆で取り組んでいかなければならないと思います。

今、小中学校ではコロナ禍で様々な行事が中止、縮小となっています。各種行事をコロナ禍前の状態に戻すのは簡単ではありませんが、場合によっては必要なことと思います。今までの伝統的な文化をどうにかして残す仕組みを作るためには、新たな知恵を絞らなければならぬと思っております。中央地区を含め6地区で、それぞれの文化や伝統があると思いますので、今までの取り組みの中で本当に必要だったもの、削減・縮小しても良さそうなものなど、それを吟味して、各地区で育った小中学生が「長井で良かった」「長井に戻ってきたい」と思える仕組み作りが重要と思います。取り留めのない話ですが、今の私の思いとして述べさせていただきました。

【議長/委員長】

ありがとうございました。次の方、お願いします。

【委員】

私はPTA会長という立場で出席しておりますが、自営業で商売をしているものですから、仕事で関係のある団体としても、市長のお話を受けて、これからの長井市の進め方・関わり方をそれぞれの視点から考えてみました。自身の子供は今年中学校を卒業したのですが、子供が地元の長井に帰ってくるとすると、その1番の理由は何になるのか常に考えています。今の私の考えとしては「親の背中」ではないかと思えます。農家はもちろんですが、我々のような自営業、個人商店は後継者不足が問題になります。だからと言って「大変だ、大変だ」という背中ばかり見ていたら、やはり後を継ぎたくなくなるのではないかと、子供が小さい頃から意識してきたつもりです。先ほど市長のお話に出てきた具体的なまちづくりがなされた長井で

あれば、地元に帰ってきた時のやりがいが高められるような気がします。

また、学校教育のことに関しては、例えば将棋の藤井聡太さんや野球の大谷翔平さんは、若い頃から一芸に秀でて才能を開花させ、その分野の第一線で活躍している方です。穿った見方をすれば、得意分野以外については、もしかすると物凄くダメなところがあるかもしれません。しかしながら、一芸を極め、才能を開花させて唯一無二の存在になるような環境づくりや指導方法等が確立できれば面白いと思います。長井からそういう子が出てくれば、更に下の世代の子供たちも憧れや興味を抱く、という好循環が出てくると思います。

【議長/委員長】

どうもありがとうございました。次の方、お願いいたします。

【委員】

思い付いたことを何点か申します。私は県外出身で3人の子供がいます。夫とは向こうの大学で出会い、向こうで結婚し、数年前に夫の実家がある長井に転入しました。先程市長のお話にありましたが、我が家は長井市内で3割しかいない3世代同居の世帯です。学校に関しては、自分の子供に対する感覚に近いのですが、特に秀でることがなくても、笑って毎日楽しく過ごしてほしいと思っています。一方、学校に行けない子がいることも身近で感じています。私の感覚では、長井の小中学校は選択肢が少ないと思います。現時点でも他地区から伊佐沢小学校に行ける制度があることは存じていますが、長井市はコンパクトシティなので、区域外の学校にバスで通える、例えば、今日はこの学校に通うという選択が出来るようになるべきだと思います。自分の場合も、職場で1番大事なものは人間関係なのかなと思っています。どんなに仕事が忙しくても、人間関係がしっかり出来ていると、明日も頑張れる、つらい事も乗り越えられるので、仲間を見つけていくことが必要です。少子化が進み、限られた人間関係の中だけで生きていかなければならないのは、子供達には苦しいかなと思う事があります。学区に紐づく校外活動も大事なんですが、区域外への学校に通えれば、子供にとって少々の逃げ場にもなります。不登校にならずに済む等、希望を持てる子供が増えるのではないかと思います。

2点目、コミセンについては、私も大好きな場所の1つなので、このまま上手に保ってもらえるとありがたいです。

3点目、学校の将来構想と直接の関係は無いのですが、長井は全体的に、情報の発信がもう少し上手く出来れば良いのに、と思うことがあります。例えばお土産品や地元のグッズの販売情報が乏しく困ったことがありました。知人がつけていた地元のピンバッジを見て、すごく可愛いなと思って私も欲しくなって探してみたんですが、販売場所が限られているようで、道の駅「川のみなと長井」でも売っていませんでした。製造元があまり売れないと判断してPRもしていないのかもしれませんが、もっとPRしていれば欲しい人に繋がるかもしれません。小さなことですが、もっと情報発信があれば良いのに、と思います。

4点目として、地域活動については、削減やコンパクト化も必要なところがあるのではないかと思います。昨日、交通安全母の会の会議等があったのですが、立哨活動日が交通安全協会と同じ日でした。どういう話かということ、立哨活動の人が

多すぎるんです。通学路を子供が2人通る場所に大人が8人も立っていました。こういう事例が発生しないよう、コンパクト化や人員調整はすべきです。人材の配分だけでなく、役割が特定の人に集中しがちでもあります。人材のバランス調整は長井の課題の1つであると思ったところでした。

【議長/委員長】

ありがとうございました。では次の方、お願いします。

【委員】

前回、江間先生からご講話いただき、色んな考え方・手法があるんだなと感じました。学校関係で私も色々関わっておりますが、今のコロナ禍で子供達がどういう方向を見て生きているのか気になっています。

今の子供の学力低下は現時点ではっきりと見えていないと思いますが、人間関係については、我々の時代は1学級40人、1学年300人位で、同級生でも顔が分からない人がいました。そんな中でもやはりグループ形成はあった記憶があります。自分の経験を踏まえて考えてみると、人間関係の形成は、学習環境にも影響する非常に重要な点であると思います。もちろん、個人の学習能力も、学力を付けさせる先生の力も、当然それは学校として必要な点ですが、人間関係の形成を土台にした学習環境をどうやって作っていくかが大事に思います。

市長の講話にあったコンパクトシティについては、長井市の地理的条件を踏まえて、今立て直しを図っていかないと、将来危機的な状況に陥ると思います。市長が危機意識を持っていらっしゃるのとおり、今の長井は重要な時期にあり、子供達が長井に帰ってくるには、働く場所が必要です。子供はいつまでも親にぶら下がり生きてはいけませんので、自立して生活できる雇用環境が地元が必要です。市長講話にあったように、産業団地の造成や、昔のマルコン電子のような核となる企業誘致、その他新しい産業の創造は絶対に必要な点であると思います。

【議長/委員長】

どうもありがとうございました。次の方、お願いいたします。

【委員】

小・中学校の義務教育学校化については、前回お話ししたとおりでございます。出来るだけ早く、小中一貫校が出来たらいいなと思っています。多くの子供が「中1ギャップ」でつまづいているようですので、是非実現をお願いしたいです。ただ、6・3制か、それ以外が良いかは、それぞれ利点・欠点があるので判断が難しいと思います。

先日、テレビを見ておりましたら、島根県の中高一貫校の特集で「探求型の学習」について紹介がありました。中学生が身近な課題を見つけ、研究し、レポートを作成したり、地域のいいところ、環境のいいところ、を探す学習でした。テレビに出ていた生徒は、発想力やチャレンジ精神、構想を具現化するにはどうすればいいのかという所までレポートに書いていました。これは凄いなと思っていたら、その後がもっとすごいんです。大学受験の志望校について、先生からは当初「ここは

無理じゃないの」と言われていた生徒が、ちゃんと志望校に合格したんです。この中高一貫校では、子供に対しての内面的なサポートもしっかりしているのがすごいと思いました。これを真似して下さいとは言いませんが、良いところは学んで、真似しても良い訳です。進学しても進学先で何をしたらいいのか、なかなか自分で見つけられない子供もいます。自分がなすべきことを見つけ出すためにも、探求型の学習は非常に有効だと認識したところです。長井にもこういうカリキュラムの学校があれば良いなと思いました。

【議長/委員長】

どうもありがとうございました。今、中高一貫校のお話がありました。取り組みのレベル差はあるかもしれませんが、長井高校の探求科でも、長井市の身近な課題を取り上げて発表や実践がなされています。今後も中高連携しながら学びを進めていきたいと思います。では次の方、お願いいたします。

【委員】

市長のお話にあったスマートシティについては、今日はじめて詳しく聞くことができました。迎田委員長からは中学生の感想についてご紹介ありましたが、長井の未来構想という観点から、子供達の声を拾い上げていく中で、子供が自分達の未来を考え、夢を現実にしていく自由な発想が出てくるような気がしました。是非そういう子供達の意見を聞けるような場があれば良いなと思ったところです。

もう1点、保育園で仕事をしている身として、子供達1人1人を大事にしてあげたいという想いがあります。学校は、1人1人の好きなこと、得意な分野が活かせるような学びの場所であって欲しいという願いがあります。

今日の市長のお話については、何らかの手法で広く情報発信して頂ければ市民の目にも留まりますし、また、長井市民全体で考えるような機会があったら良いなと思いました。

【議長/委員長】

ありがとうございました。では次の方、お願いいたします。

【委員】

子供によっては得意なもの不得意なものがありますので、得意なものをいかに伸ばしてあげられるかが、個人を生かす教育であると思います。これを行うには無理な事があることも承知していますが、人材といいますか、先ほどの藤井聡太さんの例のように、開花する才能を見つけて育ててあげられればと思います。それがもし、長井の代表的な何かで、子供が出来るものがあつたら素晴らしいなと思います。小学校のうちどこまで出来るかは分かりませんが、小さい頃から自分が得意なものを突き詰めていくことができれば、それが中学校で開花したり、その子の将来に繋がったり、ひいてはそれをうまく利用して起業に繋がっていけたら良いなと思います。

先程の市長の講話のとおり、私も地域のコミュニティをもっと連携させたいと思っていますし、既存の小学校は当面、各地区に維持していくのに賛成です。子供達

には助け合いや人間性を育てる機会が大事ですし、将来の人間性にも大きな影響を与えたいと思います。

コミセンの今後についてですが、法人化により、6つのコミセンのうち、中央地区のコミセンがどういう機能を果たしたらいいのかというのがきつと出てくると思います。私も関係者として参加しているものですから、かなり悩んでおります。どんな働きをしたらいいのか協議中ですが、これからの課題になると思いました。

【議長/委員長】

どうもありがとうございました。具体的なコミセンのこれからの課題等のご提示をいただきました。では次の方、お願いいたします。

【委員】

本日は色々勉強させていただきました、ありがとうございます。子供達の将来の選択肢を広げていくために、先進的な情報や技術、そういったものに触れ合える機会があるというのも凄く大事だと思います。価値観が多様化するなかで、便利さだけを求めないという価値観を持った人もいると思います。そのなかで長井市だから経験できるといったものも大切にしていけば、子供たちが世界に羽ばたいていってしまっって長井に戻ってこないという事を防ぐことが出来るのかなと思います。長井だから経験できるものも考えてほしいというのが私の思ったところです。

【議長/委員長】

皆様から色々なお話をいただきました。ご意見を集約する訳ではないですけども、少し振り返ってみようと思います。はじめに、「社会の仕組みを知って、新たな発想を育てるような学習環境を育てていくことが大切なのではないか」。次に、「要不要の精査をしながらも、伝統や文化を残すための見直しが必要だろう」。次に、「地域・家庭の中で、子供と大人が関わる場を作っていくことが大切」、「一芸に秀でることを認めるような教育が必要」。次に、「幅広い人間関係を構築できる教育環境を選択できる仕組みづくりが必要ではないか」。次に、「様々な活動を通して人と関わる術を学ばせる場が必要」というご提案を頂きました。次に、「小中一貫校あるいは一貫教育の必要性を改めて認識している」という感想と、「探求的な学びの推進、これを中高一体となって進めていく必要がある」というご提案をいただきました。次に、「中高生が地域づくりに参画できるような場を設けてはどうか」。次に、「得意を伸ばす教育を、地域づくりに生かす仕組みづくりが必要」。次に、「長井ならではのものを大切に、それらを子供の身近なところで触れさせたい」という事だったと思います。

今日はオブザーバーとして3名の教育委員にも参加いただいております。教育委員の皆様からも、何かご感想などあればお伺いしたいと存じます。

【教育委員】

以前、長井高校に女性のAI開発者がいらっしゃって、今、世の中はこんな風に進んでいます、というお話を聞いた時に、子供たちが目をキラキラ輝かせて聞いていたことを思い出しました。義務教育の範疇ではないのかもしれませんが、大学のク

リエイティブな専門家やスポーツ選手を見て憧れを持ったり、夢をもって学習できる環境があればいいなと思います。小野委員も今短大で教鞭をとられていますが、本物の技術や勉強をなさった方のお話を聞ける場が、小・中学校でももっと増えたらいいなと前々から思っています。長井では職業・職種が限られるため、世の中には色々な職業がある事を子供たちに知ってもらうために、専門家による大学講義のような授業があればいいなと思います。

【議長/委員長】

ありがとうございました。次の方、いかがでしょうか。

【教育委員】

私は、子供の教育にはもっと予算をかけて頂きたいと思うところがありまして、そのひとつが英語教育です。今のウクライナ情勢で避難民が発生していますが、避難先は欧州国が中心で、英語圏ですらない日本にはあまり避難者が来ていません。長井市は以前から英語教育に注力していますが、もっと力を入れて、例えば小中高一貫校にして、卒業するまでには英語で日常会話が出来るようになる等です。

大学に進学する子供たちは都会や県外に出てしまうので、アパートに住み、親からの仕送りの他、アルバイト等で生計を立てていると思いますが、そもそも都会に住んでいて親元から近くの大学に通う人はアパートも不要ですし、勉強や余暇に費やせる時間は都会暮らしと田舎暮らしでは差があると思います。具体的な予算化は難しいとは思いますが、大学進学をはじめ、子供が伸び伸びと教育を受けられるように予算を回して頂けたらなと思います。

【議長/委員長】

ありがとうございました。次の方、いかがでしょうか。

【教育委員】

皆様のお話を聞いて思ったのですが、皆様のご意見から挙がってきた、得意な一芸を伸ばすとか、情報教育とか、ITの知識とか、そういった特殊な学びの時間は、今の小中学校のカリキュラムでは全くカバー出来ないはずです。学校の5教科という枠組みには当てはまらないので、カリキュラム上でのカバーが出来ないだけでなく、教えられる先生もいないと思います。もし、実現させたいのならば、きめ細やかな教え方や体制づくりが必要になります。例えば特区制度のようなものを適用させるのかは分かりませんが、文科省が管轄している教育の枠組みから相当逸脱する内容なので、あえて逸脱していくような挑戦が求められているのかなと思います。そこから今度は、カリキュラムや、学年区切りの6・3制を4・3・2制にするなどの具体的な制度変更点が見えてくるようになるのだらうと、皆様の将来に対するビジョンをお聞きしていて思いました。

【議長/委員長】

どうもありがとうございました。では江間先生、最後にお話を伺いたいと思います。

【副委員長】

バラバラな話ではあるのですが、私からは何点かお話ししたいと思います。まず1点目です。前回と今回の会議の冒頭、教育長から、この将来構想検討委員会は「雲を掴むような話をしてもらおうことになる」とお話がありました。確かにそういう面はあるのですが、ここで問われているのは「雲をどう描くか」だと私は思っております。雲だから掴めないのではなく、その雲をどう描いていくんだ、という話を、議論をしながら進めていく取り組みなんだろうと思います。こういった取り組みは、自治体でもありますし、企業でもまさに今やっていることです。企業もこれから自分たちのミッションをどうしたらいいのか、 どういうふうに考えていくのか、 みたいなことをやっています。よく引用されるのが、あるコーヒー会社の事例です。この会社では、自分たちのミッションはコーヒーを売ることではなくて、サードプレイス、第3の場所を来た人に提供すること、としたそうです。つまり、職場でもなく、家庭でもなく、コーヒーを飲みながら、自分の事を振り返ったりする時間を過ごす場所としての、第3の場所を提供するのが、コーヒーを提供する会社のミッションでもあるんだと気付いたんだそうです。それを理念にしながら、ではそういう意味での居心地の良さをどうやって保証するかを考え、実行することで会社を大きくしていったそうです。それは結局「雲をどう描いて形にしていくのか」という議論なのだと思います。こういう議論をしていかないと、新しい価値は生み出すことはできないだろうなど、私も思っております。出来上がってしまえば、外から見ると「ああそういう事なのか」と分かるんですが、作っている最中の本人達にしてみれば「見えない所を少しずつ見える化していく」という取り組みや議論であると思います。

2点目です。学校の先生はご存じだと思いますが、教育のシステムやカリキュラムに関して、文科省は現在、「個別最適な学びと、共同的な学び」というキーワードを大きな方針として出しています。それぞれのお子さんが何を求め、何に困っているのかに焦点を当てて、どのお子さんにも個別最適な学びを保証しようという事と、もう一方で、皆で手を繋いで生み出していく、共同性のあるプロジェクト型の学習、その両方を学校でやっという事になっています。

GIGA スクール構想の児童生徒用パソコンについても、色んなプログラムがあったら先生が教えなくてもわかる、という話ではありません。パソコンが先生の代わりをするのではなく、 子供たちが自分の三角定規とか物差しのように、 文房具としてちゃんとパソコンを使えるかということなんです。普通の文房具のようにパソコンを使って、世界や友達と繋がっていけるようになる事が大事なんです。パソコンは検索機能が優れているので、何かを知りたい時にはとても便利で素早く情報を得られます。ただ、逆に言うとそれだけなんです。得られた情報を、自分でどう考えようとか、どういうふうに生かしていこうという時には、対面で1人1人が向き合って話し合ったりとか、考えたりする場が必要で、 そういう場でどう動けるかが大事になってきます。

3点目です。今日の市長のお話にあった、コミセンを自立化していこうという動きや、実行部隊として運営協議会を組織したことについては「なるほど」と思っております。私自身の問題関心で申し訳ないのですが、コミセンの運営協議会

には学校関係者は参加しているのでしょうか？もし参加していないのであれば、コミセンの、あるいは地域のミッションをどうするか、という議論の中に、その地域にある学校関係者が加われば一緒に議論出来るのではないのでしょうか。その点、まだ検討の余地があるかもしれないと、お話を聞きながら考えておりました。ただし、学校関係者の参加は実際のところすごく難しいと思います。学校というところは、先生の異動で入れ替わりますが、地域の方は学校から動くことなくずっと居り続けます。この落差は構造的に埋められませんので、学校関係者が参加する場合はかなり熱意を持って、地域と繋いでいく話し合いの場が必要になるのではないかと思います。

4点目です。私が関わった地域で経験したことについてお話します。1つは山形県最上地方の戸沢村の生涯学習です。戸沢村では学校を地域のひとつとして位置付けし、社会力を育てようと頑張っています。社会力の育成については、庄内町出身で筑波学院大学元学長、つくば市の前教育長だった門脇厚司先生がずっとおっしゃっていて、時々山形新聞にも寄稿されています。門脇先生は、「社会を担える人を育てること」をコンセプトにしてカリキュラムを作って、戸沢村の中で講義をしていました。もう1つは、私が若い頃に関わったことのある九州の水俣市です。あそこは水俣病というとても大きな課題を抱えていたところですが、今は「環境モデル都市」を掲げています。水俣市では各地域において無農薬の農作物の生産者が何人か居り、市の全域地図に生産者の顔写真を載せたんです。そうすると、どこの地域で、どんな生産者が、どんな農作物を、どのように頑張っているかがわかる地図、言うなれば、人を一望できる地図になります。そういった取り組みをしているうちに、生産者同士が繋がっただけでなく、外から入って来た人とも繋がることが出来た、という事がありました。これらの事例から読み取れる大切な点は、「コミュニティ、ネットワークの質をどうやって上げていくか」という事なんです。もちろんデジタルでも人同士が繋がるのは当然なんですけど、デジタルはハードとして繋がる手法にすぎません。人同士の繋がりを質的にどう高めていくか、あるいは学校という場所でどう支えていけるのかが大事です。その点では是非、長井を越えた情報発信を学校でもやっていければ良いなと思っています。

私は高校の小規模校の傾聴の仕事にも携わらせていただいているのですが、小国高校は定員が埋まらず存亡の危機が続いています。しかしながら、ネット上では小国高校はすごくメジャーです。小国高校では、ものすごい勢いで情報発信をしていて、県外からも入学者がきています。情報は待っていても動かなくて、自分から発信した時に初めて情報は集まってきます。最初は恥ずかしさや不安もあるかもしれませんが、自らが情報を発信することにより、求める情報が集まってきて、物事が動き出す、そういう面があると思っています。

最後に2E（トゥーイー）教育について紹介したいと思います。数字の2にアルファベットのEと書いて2E（トゥーイー）教育といいまして、発達障がいと共に優れた才能を持つお子さんに焦点を当てて、障がいに対するケアと同時に、併せ持った優れた才能をケアしていくことを、文科省としても進めていくようです。おそらくインクルーシブ教育との関係で2E教育もだんだん広がっていくと思います。この流れに沿った取り組みも今後必要になると思います。

【議長/委員長】

江間先生、ありがとうございました。皆様からも各自の視点でご提言を頂きましたことに感謝いたします。以上で議長の任を降ります。

6 その他

【事務局/教育総務課長】

市長におかれましては、ご講話を頂きありがとうございました。それでは、その他に移らせていただきます。事務局から何かありますでしょうか。

【事務局/教育総務課主査】

事務局からは、その他はありません。

【事務局/教育総務課長】

1点、ご報告させてください。第1回会議の際、長井南中学校PTA会長から、将来構想と併せて現実的な課題として、南中学校のトイレの環境が酷いため、早期改修の要望を頂きました。その際、齋藤副市長からは、環境整備は進めていくとの回答を申し上げました。この件について進展があり、国の補正予算を申請し、令和4年度中に長井南・北中学校の中規模改修を実施する運びとなりました。

具体的には、中学校のトイレを、和式トイレからウォシュレット付きの洋式トイレに改修します。もう1点、雨漏り修繕、屋根、外壁の改修も行います。南北中の合計で約6億5千万円をかけて、この2点を中心に改修を進めてまいります。

将来構想の検討と同時並行で、現在の学校環境についても可能な限り配慮して取り組んで参りますので、ご承知おき頂ければと思います。以上、ご報告でした。

7 閉会

【事務局/教育総務課長】

これをもって、第2回長井市小中学校将来構想検討委員会を閉じます。長時間に渡るご協議ありがとうございました。

以上